

深化の過程

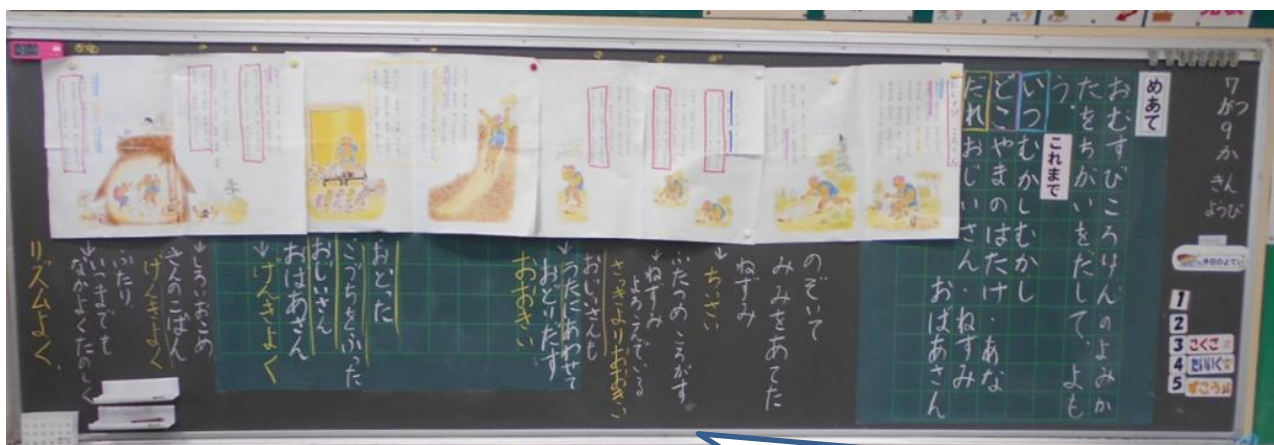


2021.09.15
No.11

☆授業実践報告⑥

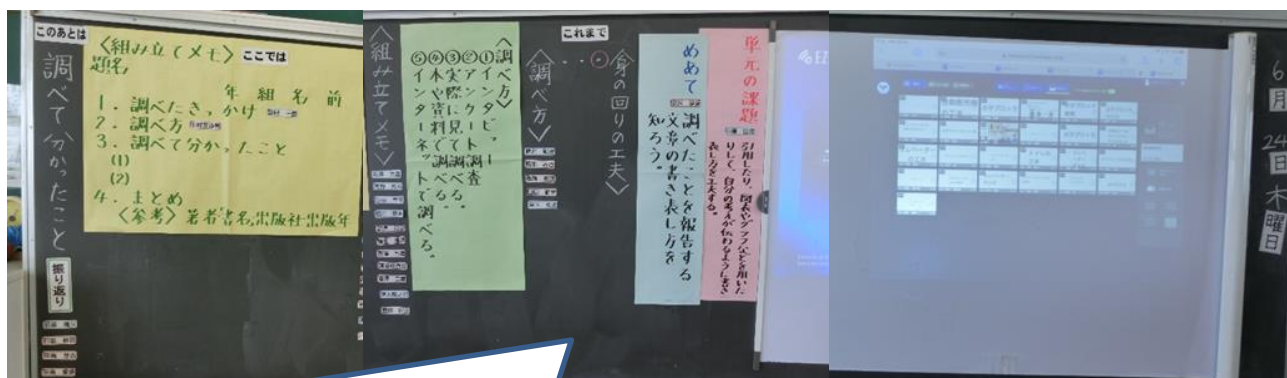
お忙しい中、実践をまとめていただきありがとうございます。前回に続き、9月6日の報告分をお伝えします。

<1年国語「おむすびころりん」友松先生>



- 児童は、キーワードの動作化により、文章内容の理解を深めることができた。
- 前時の「どこ、だれ」の押さえにより、どのように読んだら良いかを考えることができた。
- いつも常に文章内容の理解通りの音読のままでいて欲しい。

<5年国語「みんなが過ごしやすい町へ」阿部先生>



- 挙手する機会が多く与えられた。⇒ネームプレート
- 総合の時間、学年の先生に協力していただき、パソコンの **snipping tool** でスクリーンショットを切り取って写真を使ったり、ミライシードのオクリンクを使ったりできた。⇒単元の課題
- 理科や社会の自由研究とのつながり（引用・出典など）も学ぶことができた。
- 10時間扱いだったが、個人差ができる。

☆低学年では文章中の言葉を根拠に「動作化」させる活動、高学年では他教科と関連させながら学んだことを活用する活動、というように、発達段階に応じた指導を行うことで、より児童の資質・能力を高めていくことができますね。「これまで」や「このあと」の学習を見通して、今の学年では、今学習している単元では、といった「学びのつながり」を、ぜひ意識していきたいですね。（文責：山崎）

